

2007 年 11 月 14 日

社団法人軽金属学会より「第 30 回高橋記念賞」を受賞

宇部興産機械(株)の社員である重村隆(しげむら たかし)が、社団法人軽金属学会より、アルミニウム合金鋳物・ダイカスト製品の製造、ならびに関連のある工業進捗発展に寄与した現場技能職を対象に贈られる、平成 19 年度「第 30 回高橋記念賞」を受賞し、平成 19 年 11 月 10 日(土) 千葉大学に於いて、その表彰を受けました。



受賞者・重村氏の紹介

重村氏は、昭和42年に宇部興産㈱(後に、当社:宇部興産機械㈱に転籍)に入社し、昭和63年にダイカスト生産現場に所属して以来、約20年間アルミニウム合金の高圧鋳造技術の改善に従事し、社内外において多大な貢献をしている。

なかでも特筆すべきは、当社製品のひとつで、現在もなお多くのダイカスターに使用されているスクイズ鋳造機の開発と、その鋳造技術の確立に携わったこと。また、このスクイズ鋳造機にての技術指導により、2輪用ホイール・ブレーキキャリパー・アーム類の足廻り部品、鋳造欠陥に対する要求が最も厳しいABS(アンチロックブレーキシステム)バルブボディの量産立上げを達成したことである。

一方、マグネシウム合金の鋳造においても、鋳物に特徴的に生じる熱間割れや、湯廻り不良を軽減する方策をホットチャンバー機にて探索し、パソコンケース、携帯電話や音楽再生機器の筐体、シリンダーヘッドカバーの部品生産技術向上に多大な成果を上げている。

近年では、アルミニウム合金鋳物としては画期的、かつ技術的難度が高いクランチハウジングとトランスミッションケースが一体化した構造の大型ダイカスト部品の量産にも携わり、鋳造条件や金型方案の最適化や、当社独自の真空鋳造技術であるGF法を駆使し、エア巻込巣や引け巣を防いだ部品の製造に成功している。

このように、同氏は国内外200社を超える顧客に延べ230台のダイカストマシンの普及を果たすとともに、現在も当社ダイカスト鋳造技術の第一人者としてユーザーの技術支援はもとより、後輩の指導育成に積極的に尽力している。